

◎首の皮一枚～新型コロナウイルス対策再強化に向けて

4月17日の17例目の感染者を最後に、長らく感染者ゼロで踏ん張っていた本県ですが、先月の7月1ヶ月間で54名の陽性確認があり、直近8月に入り昨日は5名に留まりましたが1・2日の両日で41名の陽性確認があり、**本県も危機的な状況**との認識が示されました。

但しこの3日間の数字の中身は諫早の飲食店関係で12名、県立高校関係で15名、大村関係11名はクラスターかどうか調査中であり、まとまった感染源がみられるため、このことをもってしても現在、県独自として緊急事態宣言を出す段階ではないと判断しています。

また、「医療崩壊」が心配されるなか、現況(8/2現在)の入院状況は以下の通りです。切実な状況ではないように見えますが、実際の医療体制は極めて厳しい状況です。特に県央地区。今後高齢者の感染が増えると正に崩壊の危機に直面します。

ちなみに**軽症者療養施設は47/163**となっています。

入院医療体制

| 病床数 | 長崎 | 佐世保 県北 | 県央 | 県南 | 五島 | 上五島 | 壱岐 | 対馬 | 合計 |
|-----|----|-----------|----|----|----|-----|----|----|-----|
| 確保 | 77 | 39 | 50 | 20 | 10 | 4 | 4 | 4 | 208 |
| 入院 | 13 | 9 | 7 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 31 |

県医師会など体制整備

かかりつけ医でもPCR

県内で新型コロナウイルスの感染確認が相次いでいることを受け、県医師会と長崎大、長崎大病院は3日、長崎市内で共同記者会見し、PCR検査について無症状でも希望すれば地域のかかりつけ医などで受けられる体制を整備したこと

県内では保健所を管轄する県、長崎市、佐世保市と委託検査の集合契約を締結。医師会所属の医師が一般の医療にも影響が及ぶと危機感を表明。県医師会は「コロナウイルス対策再強化宣言」を出した。

宣言は、若者の県外者との交流や特定の飲食店での感染が目立つと指摘。マスクの着用や手洗い、手指消毒の徹底、3密を避けるなど感染拡大防止策を呼び掛けている。

県医師会の森崎正幸会長は「感染を心配している人は積極的にかかりつけ医でPCR検査を受けてほしい」と話した。

(田中祐作)

これまで私達チーム自民党も

- GW連休前のドライブスルー方式のPCR検査場設置
- 休業補償30万円支給
- 新しい生活様式支援補助金10万(直近では申請締切延長も)
- 軽症者用療養施設の早期確保
- 医療従事者用宿泊ホテル確保等、実現に努力してきました。

現在はまだ個人としての取り組みですが、今日の長崎新聞にPCR検査の拡充の記事が掲載されていますが(左記事)、「検査を受けたい方がすぐに検査を受けられる体制をより確実に整備」すべく、検査場所についても病院外、例えば空港等で検査をできるように働きかけています。尚、党所属議員からの提案事項をとりまとめ中です。

最後になりますが、今般同僚県議のコロナ感染で多くの方々にご不安とご心配をおかけしました。幸い他の県議は検査の結果全て陰性でしたが今後とも公人として皆の模範となるべく、また今回の件を教訓として議会活動に反映、行動してまいります。

日に日に暑さ厳しくなってきました。ご自愛のうえお過ごしくださいませ。